授業科目名：教科教育法（国語）１Ａ	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：２単位	担当教員名：菊地　圭子 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 国語)
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

１）中学校・高等学校国語科の目標と内容について、その概要を説明することができる。

２）学習指導要領をふまえ、ＩＣＴ教育・アクティブラーニングなどを取り入れ、生徒の実態にあわせた授業の計画を立てることができる。また、学習指導案を作成することができる。

３）教材研究の方法・内容等について説明することができる。実際に各教材の分析をすることができ、それを授業計画に活かすことができる。

４）本講義で学んだことを各自の模擬授業等で活かし、また、他者の模擬授業を観察し、模擬授業後の討議で自分の意見・感想を述べることができる。

授業の概要

中学校・高等学校国語科教諭一級免許状を取得するために必要な「教科及び教科の指導法に関する科目」の一つとして開講する。中学校・高等学校の国語科教員として身に付けておかなければならない知識・技術を具体的・実践的に学ぶ。「学習指導要領」「学習指導案の書き方」「評価」等、教科教育の基本的知識についても学ぶ。現代文教材（説明文・評論文、文学的文章、詩・短歌・俳句）を中心に、理論と実践両面を学ぶ。

授業計画

第1回　オリエンテーション（本学での教職課程カリキュラムについて、授業の進め方、受け方）

第2回　学習指導要領とは何か

第3回　学習指導案と評価

第4回　ＩＣＴ教育、アクティブラーニングを取り入れた国語の授業とは

第5回　説明文・評論文教材の扱い方

第6回　模擬授業（中学１年説明文教材）と討議

第7回　模擬授業（高校１年評論文教材）と討議

第8回　文学教材の扱い方

第9回　模擬授業（中学１年小説教材）と討議

第10回 模擬授業（中学３年小説教材）と討議

第11回 模擬授業（高校小説教材）と討議

第12回 詩・短歌・俳句教材の扱い方

第13回 模擬授業（中学詩教材）と討議
第14回 模擬授業（中学近代短歌教材・中学近代俳句教材）と討議
第15回 まとめ

テキスト
文部科学省「中学校学習指導要領解説　国語編」東洋館出版社
文部科学省「高等学校学習指導要領解説　国語編」教育出版
「国語科教師になるための３０のレッスン」
実践国語科教育法 「楽しく、力のつく」授業の創造 第３版　著者　町田 守弘　（編著）

参考書・参考資料等
文部科学省　『小学校学習指導要領解説　国語編』　東洋館出版社
「中学校学習指導要領」（最新版）、「高等学校学習指導要領」（最新版）

学生に対する評価

評価方法	割合	評価基準
筆記試験	0%	なし
実技評価	30%	模擬授業
レポート評価	60%	授業内レポート
平常点評価	10%	平常点
その他	0%	なし

授業科目名：教科教育法（国語）１Ｂ	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：２単位	担当教員名：菊地　圭子 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 国語)
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

１）中学校・高等学校国語科の目標と内容について、その概要を説明することができる。

２）学習指導要領をふまえ、ＩＣＴ教育・アクティブラーニングなどを取り入れ、生徒の実態にあわせた授業の計画を立てることができる。また、学習指導案を作成することができる。

３）教材研究の方法・内容等について説明することができる。実際に各教材の分析をすることができ、それを授業計画に活かすことができる。

４）本講義で学んだことを各自の模擬授業等で活かし、また、他者の模擬授業を観察し、模擬授業後の討議で自分の意見・感想を述べることができる。

授業の概要

中学校・高等学校国語科教諭一級免許状を取得するために必要な「教科及び教科の指導法に関する科目」の一つとして開講する。中学校・高等学校の国語科教員として身に付けておかなければならない知識・技術を具体的・実践的に学ぶ。「学習指導要領」「学習指導案の書き方」「評価」等、教科教育の基本的知識についても学ぶ。現代文教材（説明文・評論文、文学的文章、詩・短歌・俳句）を中心に、理論と実践両面を学ぶ。

授業計画

第1回　古典教材と学習指導要領―ＩＣＴ教育・アクティブラーニングをどう取り入れるか―

第2回　古文教材を学ぶ意義―古文教材の扱い方―

第3回　古典文法を学ぶ意義―古典文法の扱い方―

第4回　模擬授業（中学1年古文教材）と討議

第5回　模擬授業（中学2年古文教材）と討議

第6回　模擬授業（中学3年古文教材）と討議

第7回　模擬授業（高校『国語総合』古文教材）と討議

第8回　模擬授業（高校『古典』古文教材）と討議

第9回　模擬授業（古典和歌教材）と討議

第10回 漢文教材の扱い方

第11回 模擬授業（中学1年漢文教材）と討議

第12回 模擬授業（中学2年漢文教材）と討議

第13回 模擬授業（中学3年漢文教材）と討議

第14回 模擬授業（高校『国語総合』漢文教材）と討議
第15回 まとめ

テキスト
文部科学省「中学校学習指導要領解説　国語編」東洋館出版社
文部科学省「高等学校学習指導要領解説　国語編」教育出版
「国語科教師になるための３０のレッスン」
実践国語科教育法 「楽しく、力のつく」授業の創造 第３版　著者　町田 守弘 （編著）

参考書・参考資料等
文部科学省　『小学校学習指導要領解説　国語編』　東洋館出版社
「中学校学習指導要領」（最新版）、「高等学校学習指導要領」（最新版）

学生に対する評価

評価方法	割合	評価基準
筆記試験	0%	なし
実技評価	30%	模擬授業
レポート評価	60%	授業内レポート
平常点評価	10%	平常点
その他	0%	なし

授業科目名：教科教育法（国語）２Ａ	教員の免許状取得のための必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： ２単位	担当教員名： 宮﨑　潤一 担当形態： 単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 国語)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標　新学習指導要領に則った、主体的、対話的で深い学びを実現できるように教材の特性を生かしたプレゼンテーションや協働学習を活用できる教師を目指す。

授業の概要　授業者は事前に担当と打ち合わせをし、パワーポイント、略案、ワークシートをリモートでも対応できるようスレッドに上げる。授業終了後、生徒役の学生から二枚の付箋をもらう。グリーン（よかった点）、イエロー（疑問点）、ピンク（要改善）。授業後、その感想と自己の改善を自筆で書き裏面に付箋を添えて提出。後日担当から、生徒役のレポート（八枚程度）を添えて返却される。

授業計画

第１回：講義　ガイダンス　学習指導要領の解説　情報通信技術の活用方法　模擬授業者決定

第２回：中学一年生　説明的文章　ダイコンは大きな根・ちょっとたちどまって

第３回：中学二年生　説明的文章　モアイは語る・メディアの特徴を生かして情報をあつめよう

第４回：中学三年生　説明的文章　報道文を比較して読もう・人間と人工知能と創造性

第５回：高校国語総合　評論　水の東西・情報の「メタ」化

第６回：中学一年生　文学的文章　少年の日の思い出

第７回：中学二年生　文学的文章　走れメロス

第８回：中学三年生　文学的文章　故郷・握手

第９回：高校国語総合　小説　羅生門・灰色の月

第１０回：中学一年生　短詩系　朝のリレー　詩の世界

第１１回：中学二年生　短詩系　短歌に親しむ　短歌を味わう

第１２回：中学三年生　短詩系　俳句の可能性・俳句を味わう

第１３回：高等学校国語総合　短詩系　死なない蛸　短歌２１首・俳句２１首

第１４回：中学一年生～高校

第１５回：各授業の全員による振り返りとベスト１の授業の投票

テキスト　・中学国語１～３（光村図書）　・高校国語総合（三省堂）・協働して学びに向かう力を育てる中学校国語科教育実践集（渓水社　宮﨑潤一）

参考書・参考資料等　中学校学習指導要領解説（平成２９年度告示）国語編（文部科学省）
高等学校学習指導要領解説（平成３０年度告示）国語編（文部科学省）、各種資料集・便覧等

学生に対する評価　１、模擬授業での評価（４５％）２、模擬授業生徒役の毎回の授業評価（１

０項目）例　本時のねらいはあったか。パワーポイントを使ったプレゼンの内容は適切か等。（４５％）３、最終回で選ばれたベスト授業の分析。どうしてこの授業が選ばれたか。（最低千字）（１０％）

授業科目名：教科教育法（国語）２Ｂ	教員の免許状取得のための必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： ２単位	担当教員名： 宮﨑　潤一 担当形態： 単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 国語)		
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標　新学習指導要領に則った、主体的、対話的で深い学びを実現できるように教材の特性を生かしたプレゼンテーションや協働学習を活用できる教師を目指す。

授業の概要　授業者は事前に担当と打ち合わせをし、パワーポイント、略案、ワークシートをリモートでも対応できるようスレッドに上げる。授業終了後、生徒役の学生から二枚の付箋をもらう。グリーン（よかった点）、イエロー（疑問点）、ピンク（要改善）。授業後、その感想と自己の改善を自筆で書き裏面に付箋を添えて提出。後日担当から、生徒役のレポート（八枚程度）を添えて返却される。

授業計画

第１回：講義　ガイダンス　学習指導要領の解説　情報通信技術の活用方法　模擬授業者決定

第２回：中学一年生　古文　「蓬莱の玉の枝」竹取物語

第３回：中学二年生　古文　枕草子・平家物語・徒然草

第４回：中学三年生　古文　万葉集・古今和歌集・新古今和歌集

第５回：高校国語総合　古文　「芥川」伊勢物語

第６回：中学一年生　漢文　「今に生きる言葉」　故事成語

第７回：中学二年生　漢文　「漢詩の風景」杜甫・李白・孟浩然等

第８回：中学三年生　漢文　「学びて時に」論語

第９回：高校国語総合　漢文　「鴻門の会」史記

第１０回：中学一年生　古文・漢文　故事成語２

第１１回：中学二年生　古文・漢文　和歌　杜甫・李白・孟浩然等

第１２回：中学三年生　古文・漢文　おくのほそ道・古典名句・名言集

第１３回：高等学校国語総合　古文・漢文　日記文学　「四面楚歌・項王の最後」史記

第１４回：中学一年生～高校

第１５回：各授業の全員による振り返りとベスト１の授業の投票

テキスト・中学国語１～３（光村図書）　・高校国語総合（三省堂）・協働して学びに向かう力を育てる中学校国語科教育実践集（渓水社　宮﨑潤一）

参考書・参考資料等　中学校学習指導要領解説（平成２９年度告示）国語編（文部科学省）
高等学校学習指導要領解説（平成３０年度告示）国語編（文部科学省）、各種資料集・便覧等

学生に対する評価　１、模擬授業での評価（４５％）２、模擬授業生徒役の毎回の授業評価（１０項

目）例　本時のねらいはあったか。パワーポイントを使ったプレゼンの内容は適切か等。（４５％）
３、最終回で選ばれたベスト授業の分析。どうしてこの授業が選ばれたか。（最低千字）（１０％）

授業科目名：教科教育法（理科）A	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：中井　睦美 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 理科)		
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解する。

1）学習指導要領における理科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。

2）個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。

3）理科の学習評価の考え方を理解している。

4）理科教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。

5）発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができる。

授業の概要

理科教科の背景となる学問領域との関係を理解し、理科の教科内容の系統性を理解し、学びを深めるための情報機器及び教材の活用、授業の工夫や指導上の留意点について理解する。特に高等学校の理科について学ぶ。

授業計画

第１回：オリエンテーション　現代の理科教育に求められるもの

第２回：中学高校の学習指導要領における理科教育の特徴

第３回：理科教科の教育課程の変遷と評価の変遷

第４回：高等学校理科教科の科目編成について

第５回：「科学と人間生活」の性格と内容及び評価

第６回：「物理基礎」の性格と内容及び評価　中学物理範囲との比較

第７回：「物理」の性格と内容及び評価

第８回：「化学基礎」の性格と内容及び評価　中学化学範囲との比較

第９回：「化学」の性格と内容及び評価

第１０回：「生物基礎」の性格と内容及び評価　中学生物範囲との比較

第１１回：「生物」の性格と内容及び評価

第１２回：「地学基礎」の性格と内容及び評価　中学地学範囲との比較

第１３回：「地学」の性格と内容及び評価

第１４回：　理数探求の性格と内容及び評価　数学等との関連

第１５回：　情報機器の利用　実験実習の導入と安全確保（高校内容を中心に）まとめ

テキスト 「中学校学習指導要領〈平成２９年告示〉解説　理科編」文部科学省 「高等学校学習指導要領〈平成３０年告示〉解説　理科編　理数編」文部科学省
参考書・参考資料等 特になし
学生に対する評価 レポート60%, 授業での態度参加度40%

授業科目名：教科教育法（理科）B	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：中井　睦美 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 理科)		
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

1）子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。

2）当該教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。

3）学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。

4）模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。

5）当該教科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。

授業の概要

具体的な授業場面を想定し、指導計画のたて方、学習指導案の書き方、模擬授業などを通して学校現場での授業が行えるような、学びを蓄積する。

授業計画

第１回：オリエンテーション　授業計画のたて方

第２回：年間指導計画のたて方（中学校理科）

第３回：年間指導計画のたて方　（高等学校理科）

第４回：学習指導案の作成方法

第５回：模擬授業（生徒が興味を持つ授業）

第６回：模擬授業（観察を行う）

第７回：模擬授業（実験を行う）

第８回：模擬授業（情報機器の活用やプログラミング）

第９回：模擬授業（理論や定義に関する授業）

第１０回：模擬授業（生活に根ざした授業）

第１１回：模擬授業の振り返り

第１２回：情報機器の活用(データサイエンスを含む)

第１３回：野外実習(観察)を取り入れる

第１４回：博物館などの利用

第１５回：災害教育を授業計画に取り入れる　まとめ
テキスト 「中学校学習指導要領〈平成２９年告示〉解説　理科編」文部科学省 「高等学校学習指導要領〈平成３０年告示〉解説　理科編　理数編」文部科学省
参考書・参考資料等 特になし
学生に対する評価 レポート60%, 授業での態度参加度40%

授業科目名：教科教育法（理科）C	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：中井　睦美 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 理科)		
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

1) 学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。
2) 個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。
3) 当該教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。
4) 発展的な学習内容について探究し、学習指導への位置付けを考察することができる。
5) 子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。
6) 当該教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。
7) 当該教科における実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組むことができる。

授業の概要

特に中学理科と高等学校理科の教育課程の違いに注目して、生徒の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計が出来るように、具体的な授業内容について学ぶ。

授業計画

第１回：中学理科と高校理科の教育課程の違い
第２回：定性的内容と定量的内容の取り扱い
第３回：理科教育で取り扱う数量計算
第４回：理科教育で作成する図表作成方法
第５回：実験ノートの指導法と評価
第６回：理科におけるスケッチの指導法と評価
第７回：中学で取り扱う実験の安全性確保
第８回：中学で取り扱う実験の薬品調整法
第９回：中学で取り扱う生物実験の実験動物の取り扱い
第１０回：野外実習中の安全性確保と計画
第１１回：理科授業で使いやすいwebサイトとデータの活用（気象）
第１２回：理科授業で使いやすいwebサイトとデータの活用（宇宙）
第１３回：理科授業で使いやすいwebサイトとデータの活用（ジオパーク）
第１４回：理科授業で使いやすいwebサイトとデータの活用（地震、火山、河川）
第１５回：理科授業で使いやすいwebサイトとデータの活用（実験動画）まとめ

テキスト 「中学校学習指導要領〈平成２９年告示〉解説　理科編」文部科学省 「高等学校学習指導要領〈平成３０年告示〉解説　理科編　理数編」文部科学省
参考書・参考資料等 特になし
学生に対する評価 レポート60%, 授業での態度参加度40%

授業科目名：教科教育法（理科）D	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：末松　加奈 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 理科)
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

中学を中心に理科の指導法について、ICTの活用を含め学ぶ。特に、小学校の学習とつなげながら、中学における理科の学習のねらいや指導上の留意点を理解する。

授業の概要

「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」を柱とする内容の系統性を理解し、学びを深めるための情報機器及び教材の活用、授業の工夫や指導上の留意点について理解する。

授業計画

第１回：小・中学校理科の基本的な考え方
第２回：「エネルギー」の系統性と指導上の留意点
第３回：「粒子」の系統性と指導上の留意点
第４回：「生命」の系統性と指導上の留意点
第５回：「地球」の系統性と指導上の留意点
第６回：教室で授業を行う場合のICT活用
第７回：観察・実験におけるICT活用
第８回：理科室マネジメントの基本
第９回：基本的な実験器具操作に関する指導
第１０回：安全に配慮した観察・実験の指導
第１１回：使用される教材とその工夫
第１２回：関心・意欲を喚起する学習環境の工夫
第１３回：探究的な活動にするための工夫
第１４回：理科における問題解決型の授業
第１５回：個に応じた指導の充実にむけて

テキスト

「中学校学習指導要領〈平成29年告示〉解説　理科編」文部科学省
「高等学校学習指導要領〈平成30年告示〉解説　理科編 理数編」文部科学省

参考書・参考資料等

「小学校学習指導要領〈平成２９年告示〉解説　理科編」文部科学省、山口晃弘・宮内卓也・

前川哲也（編著)「ビジュアル解説でよくわかる 中学校 理科室マネジメントBOOK」明治図書出版
学生に対する評価 授業への取り組みに対する意欲や態度（40%)、講義内容に関するレポート(60%)

授業科目名：教科教育法（保健Ｉ）	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：２単位	担当教員名：加藤　勇之助 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

（１）健康を適切に管理、 改善していくための資質や能力の基礎について説明できる。

（２）保健分野について実際の教育活動の中で説明できる。

（３）保健分野の系統的指導理論を理解し、指導実践に活用できる基礎が培われる。

（４）保健分野の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、実践することができる。

授業の概要

「個人生活における健康・安全に関する理解を通して，自らの健康を適切に管理し，改善していくための資質や能力の基礎を培い，実践力の育成を図る（学習指導要領解説書から引用）」という保健分野の目標を達成するための指導力の涵養を一義的な目標とする。従って、次の２点に主眼を置いた授業を展開する。①保健分野について学んだことを実際の教育活動に具体的に活用するための健康についての理解促進。②小学校から高等学校の保健分野の系統的指導理論を理解し、指導実践に活用できる基礎を培う。

授業計画

第１回：「保健の新しい方向」新しい保健科教育の目的と内容、保健科教育の歴史的変遷

第２回：「総則と健康」体育・健康に関する指導と保健、学習内容、学習指導のポイント、指導の評価

第３回：「保健の目標」教科の目標と保健、小学校保健領域、中学校保健分野、高等学校科目・保健の目標

第４回：「保健の内容」ねらいと学習内容、捉え方のポイント

第５回：「保健の指導計画」指導計画作成の意義、基本と例

第６回：「保健科教育の実際」情報機器等を用いた効果的な指導方法と留意事項

第７回：「保健の学習評価」学習評価の意義と評価観点、基準

第８回：「小学校の保健の授業例①・毎日の生活と健康」評価の仕方

第９回：「小学校の保健の授業例②・心の健康」けがの防止、病気の予防、評価の仕方

第１０回：「中学校の保健の授業例①・心身の機能の発達と心の健康」ねらいと学習内容、学習指導のポイント、評価の仕方

第１１回：「中学校の保健の授業例②・健康と環境、傷害の防止」ねらいと学習内容、学習指導のポ

イント、評価の仕方　模擬授業 第１２回：「中学校の保健の授業例③・健康な生活と疾病予防」ねらいと学習内容、学習指導のポイント評価の仕方　模擬授業 第１３回：高等学校の保健の授業例①・現代社会と健康」ねらいと学習内容、学習指導ポのイント、評価の仕方　模擬授業 第１４回：「高等学校の保健の授業例②・生涯を通じる健康」ねらいと学習内容、学習指導のポイント、評価の仕方　模擬授業 第１５回：「高等学校の保健の授業例③・社会生活と健康」ねらいと学習内容、学習指導ポイント、評価の仕方　模擬授業 定期試験
テキスト 文部科学省・高等学校学習指導要領解説　（最新版） 文部科学省・中学校学習指導要領解説・保健体育編・（最新版） 文部科学省検定済教科書・中学校保健体育科用（最新版）
参考書・参考資料等 杉山重利・高橋建夫・園山和夫編：保健体育科教育法、大修館書店
学生に対する評価 筆記70％学期末試験の他、小テストも含む。 レポート評価20％課題に対してチェックリストに沿って作成する。 平常点評価10％授業への参加態度と授業内小レポート課題。

授業科目名：教科教育法（保健Ⅱ）	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：２単位	担当教員名：加藤　勇之助 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

授業のテーマ及び到達目標

「教科教育法（保健Ⅰ）」に続く科目である。　特に、指導計画論、指導方法論、評価論に重点をおいて講義を進めるが、保健体育（保健）指導者としての基礎的な指導理論を理解し、指導実践に活かせるようにする。

授業の概要

（１）保健分野の系統的指導理論を理解し、指導実践に活用できる基礎が培われる。

（２）指導案を作成し、それに基づいて保健の授業が実践できるようになる。

授業計画

第１回：「保健の指導計画①・小学校保健の指導計画の実例」年間計画の例

第２回：「保健の指導計画②・小学校保健の単元計画、単位時間計画（指導案）の例」心の健康、私のこころ

第３回：「保健の指導計画③・中学校保健の指導計画の実例」年間計画の例

第４回：「保健の指導計画④・小学校保健の単元計画、単位時間計画（指導案）の例」健康な生活と疾病の予防、医薬品の利用

第５回：「保健の指導計画⑤・高等学校保健の指導計画の実例」年間計画の例

第６回：「保健の指導計画⑥・高等学校保健の単元計画、単位時間計画（指導案）の例」現代社会と健康、健康の考え方

第７回：情報機器等を用いた効果的な教材活用法

第８回：1単位時間の学習指導案(時案)における模擬授業

第９回：指導者・健康教育のあり方（資質・役割・研修）、模擬授業

第１０回：「保健分野」の指導と評価、模擬授業

第１１回：「中学校保健分野の内容」指導と評価、模擬授業

第１２回：「高等学校保健分野の内容」指導と評価、模擬授業

第１３回：「試験想定問題と解答例」小学校・中学校の保健の授業

第１４回：「試験想定問題と解答例」高等学校の保健の授業

第１５回：教師になるための基礎知識、定期試験

定期試験

テキスト

文部科学省・高等学校学習指導要領解説(最新版) 文部科学省・中学校学習指導要領解説・保健体育編(最新版) 文部科学省検定済教科書・中学校保健体育用（最新版）
参考書・参考資料等 特になし
学生に対する評価 筆記試験80%　学期末試験の他、小テストも含む。 レポート評価20%　課題に対してチェックしリストに沿って作成する。

授業科目名:教科教育法（体育Ⅰ）	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：２単位	担当教員名：小出　高義 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)		
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

今日の生涯スポーツ社会と体育の関係を理解するとともに、保健体育授業の目標や内容および各領域の指導方法・評価などについて理解し，保健体育教員としてふさわしい基礎的な知識や指導力を習得する。

授業の概要

中学・高校における保健体育の目標や内容について学ぶとともに，各領域の指導方法・評価などについて理解し，体育授業の実際から，保健体育教員としてふさわしい基礎的な知識や指導力を身につける授業となる。

授業計画

第１回：ガイダンス　（保健体育科の意義と目標）
第２回：体育とは①―体育授業の歴史的変遷から
第３回：体育とは②―これから求められる体育授業
第４回：　産業社会の体育に見いだされた諸問題
第５回：文化とスポーツ
第６回：運動の特性とは
第７回：体育で扱われるスポーツを再考する
第８回：体育の学習内容
第９回：体育の授業づくりと単元
第１０回：単元計画作成の手順と実践例
第１１回：学習指導の在り方を考える視点
第１２回：体育の学習評価
第１３回：　体育授業参観の視点
第１４回：実際の体育授業に学ぶ　模擬授業
第１５回：体育授業における授業協議会　模擬授業

テキスト

鈴木秀人ほか「中学校・高校の体育授業づくり入門」第2版，学文社，2020

参考書・参考資料等 文部科学省，「中学校学習指導要領解説（保健体育編）」，平成29年告示 文部科学省，「高等学校学習指導要領解説（保健体育編・体育編）」，平成30年告示 杉山重利ほか，「保健体育科教育法」，大修館書店，2009
学生に対する評価 1　興味・関心をもって，意欲的に授業に取り組めたか。学習シートによる予習（40%） 2　保健体育授業の目標や内容および各領域の指導方法・評価などについて理解し，保健体育教員としてふさわしい基礎的な知識や指導力を習得できたか。授業振り返りの記述（40%） 3　体育授業の参観方法を理解すると共に、授業から学ぼうとすることが出来たか。授業記録（20%）

授業科目名:教科教育法（体育Ⅱ）	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：２単位	担当教員名：小出　高義 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 保健体育)		
施行規則に定める科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

各運動領域の単元計画及び学習指導案を作成するなかで、それぞれの運動の特性に基づいた目標を設定し、適切な指導法を検討することができる。

授業の概要

中学校学習指導要領・高等学校学習指導要領に準拠した体育の授業作りを目指して、保健体育科教育学の基本的な内容を理解するとともに、仲間とともにその指導方法の実際について検討することが出来る。

授業計画

第１回：オリエンテーション（これからの体育学習のあり方について考える）
第２回：現在の中・高生と運動の関係を見る視点①生活習慣
第３回：現在の中・高生と運動の関係を見る視点②運動歴
第４回：体育学習の心理学的基礎
第５回：年間指導計画の検討
第６回：体育における安全指導
第７回：種目に応じた「準備運動」の検討
第８回：体育授業の「導入」についての検討
第９回：学習指導案の「導入」部分の作成
第１０回：学習指導案の「導入」部分の交流
第１１回：体育授業の「まとめ」についての検討　模擬授業
第１２回：学習指導案の「まとめ」部分の作成
第１３回：「保健体育科学習指導案」を作成する①各項目を検討する
第１４回：「保健体育科学習指導案」を作成する②項目間の関係を検討する
第１５回：「保健体育科学習指導案」で交流する

テキスト

鈴木秀人ほか「中学校・高校の体育授業づくり入門」第2版，学文社，2020

参考書・参考資料等

文部科学省，「中学校学習指導要領解説（保健体育編）」，平成29年告示

文部科学省，「高等学校学習指導要領解説（保健体育編・体育編）」，平成30年告示 杉山重利ほか，「保健体育科教育法」，大修館書店，2009
学生に対する評価 １　興味・関心をもって，意欲的に授業に取り組めたか。学習シートによる予習（40%） ２　保健体育授業の目標や内容および各領域の指導方法・評価などについて理解し，保健体育教員としてふさわしい基礎的な知識や指導力を習得できたか。授業振り返りの記述（40%） ３　学びを活かした学習指導案の作成が出来たか。提出指導案（20%）

授業科目名：教科教育法（英語）基礎A	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：２単位	担当教員名：静　哲人 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　外国語（英語））		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		

授業の到達目標及びテーマ

- 学習指導要領の基本的精神を理解する
- 国際語としての英語にとって重要である音声的特徴を理解し、それらを習得する。
- 英語授業の代表的な形態とその長所、短所を理解する。
- 第二言語習得理論の基礎概念を理解する。

授業の概要

・教科書の指定範囲を事前に読み、その内容について討論を行う。

・中学・高校の授業の録画を視聴し、それにもとづいて討論および、実技練習を行う。

授業計画

第１回：導入・自分の受けてきた英語授業を振り返る

第２回：「世界の諸英語」時代における英語音声指導を考える（国際語としての英語、という概念）

第３回：正確さと流暢さの関係を考える

第４回：母語話者による音声指導と非母語話者による音声指導

第５回：音声英語の内容と形式の関係

第６回：意識しなくとも適切な音声を生成するには（第二言語習得理論の理解：ワーキングメモリとキャパシティ理論）

第７回：学習者の動機づけをそがない音声指導の工夫（第二言語習得理論の理解：学習者要因、生徒の特性・習熟度の理解）

第８回：英語のリズムを身につける指導法　(ICT情報機器の活用)

第９回：音声教材としての英語の歌の特徴　(ICT情報機器の活用)（異文化理解教材としての歌）

第１０回：一斉授業とペアワークの長所と短所　(ICT情報機器の活用)

第１１回：予習はさせるべきか、何をさせるべきか・授業録画視聴「音読の技術を見る」

第１２回：教壇で話すときの技術・授業録画視聴「発問の技術を見る」（生徒との英語でのインタラクションの方法を理解する）

第１３回：音読指導の留意点・授業録画視聴「ペアワークの技術を見る」(ICT情報機器の活用)（生徒

どうしのインタラクションを促進する方法を理解する） 第１４回：モデルとしての英語教師（第二言語習得理論の理解：言語獲得と言語学習の異同） 第１５回：４技能を統合的に指導するには（第二言語習得理論の理解：タスク・ベースの指導）
テキスト 静哲人『英語授業の心技体』（研究社）
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領（最新版）・高等学校学習指導要領（最新版）、 中学校学習指導要領の英訳（最新版）・高等学校学習指導要領の英訳（最新版）
学生に対する評価 予習の状況(25%)、授業内の小テスト(25%)、授業への貢献(25%)、提出物の質(25%)

授業科目名：教科教育法（英語）基礎B	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：２単位	担当教員名：静　哲人 担当形態：単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　外国語（英語））
施行規則に定める科目区分又は事項等	・各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

授業の到達目標及びテーマ

- 学習指導要領の精神を理解し、それを英語でも表現することができる
- 中学校、高等学校の教材例を用いて、短いマイクロティーチングを行うことができる
- 基礎的なICT技術を用いて、題材を教材化する技術を身につける
- 第二言語習得理論の重要概念を理解する。

授業の概要

・教科書の指定範囲を事前に読み、その内容について討論を行う。
・中学・高校の授業の録画を視聴し、それを参考にして短いマイクロティーチングを行う。
・パワーポイントやワードを用いて、題材を教材化する練習を行う。

授業計画

第１回：導入・英語を英語で教えるために（第二言語習得理論の理解：インプット仮説）
第２回：ジェスチャーや絵などの非言語的手段の利用（含むICT技術）
第３回：文法事項の導入を英語で行うときのコツ（第二言語習得理論の理解：形態素の習得順序）
第４回：　一斉授業の割合を減らすためには
第５回：ペアワーク局面と一斉授業局面のバランス（生徒間のインタラクションを増大させる）
第６回：　単語の導入にあたって留意すべきこと　（語彙の深さ、広さ、認知速度）
第７回：　意味のかたまりであるチャンクの指導法・授業ビデオ視聴「Maps」（異文化理解に関する指導について理解する）
第８回：　日英対訳形式の利用法・授業ビデオ視聴「パワーポイントを活用した授業」（ICTを活用した効果的な教材づくり）
第９回：　空所つき英文を利用したスピーキング活動・ワードによる空所補充の作成（ICTを活用した効果的な教材づくり）
第１０回：　真偽判定形式のタスクを利用した言語活動・効果的な真偽判定文の作成法（言語能力の測定と評価の方法を理解する）

第１１回： 英語による発問を行う際の留意点・授業ビデオ視聴「英文をチャート化する」 第１２回： パラフレーズによる説明を行う際の留意点・英英辞書の活用法 第１３回：自分の意見を英語で言わせるための補助・授業ビデオ視聴「成人式」 第１４回：生徒を英語嫌いにさせないために（第二言語習得理論の理解：学習者要因、生徒の特性・習熟度の理解） 第１５回：総まとめと振り返り
テキスト 静哲人『英語授業の心技体』（研究社）
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領（最新版）・高等学校学習指導要領（最新版）、 中学校学習指導要領の英訳（最新版）・高等学校学習指導要領の英訳（最新版）
学生に対する評価 予習の状況(25%)、授業内の小テスト(25%)、授業への貢献(25%)、提出物の質(25%)

授業科目名： 教科教育法（英語）応用A	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 淡路　佳昌
			担当形態： 単独

科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　外国語（英語）） ・各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）
施行規則に定める 科目区分又は事項等	

授業の到達目標及びテーマ

・きちんとした発音で音読ができるようになる。

・重要語を、生徒に分かるレベルの英語で説明できるようになる。

・教科書の英文を用いて、生徒との英語によるインタラクションを進めることができるようになる。

・ALTとのティーム・ティーチングの方法を理解する。

授業の概要

中学や高校での英語授業を想定して、実際に教壇で教えるためのスキルをトレーニングする。検定教科書の題材をベースに、実際にマイクロティーチングをしながら理解を深め、技能を向上させる。

授業計画

第1回（Day 1）　ガイダンス、第二言語習得理論の概観、授業サイト登録

第2回（Day 2）　英語学習の目的、授業の基本構成、第二言語習得理論の理解：タスク・ベースという考えかた

第３回（Day 3）第１章　毎時間の授業の柱となる活動：Oral Introduction, Oral Interaction　（第二言語習得理論：インプット仮説、インタラクション仮説）

第4回（Day 4）　第１章　毎時間の授業の柱となる活動：Question-Answering, Reading Aloud

第5回（Day 5）　第２章　言語活動を導く手段：Pattern Practice, Conventional Conversation, 英文和訳、和文英訳（英語能力の測定と評価の方法としての翻訳）

第6回（Day 6）　第２章　言語活動を導く手段：口頭作文，誘導作文（情報機器の使用を含む）（英語能力の測定と評価の方法としての口頭作文）

第7回（Day 7）　第２章　言語活動を導く手段：Dictation、要約、暗唱（情報機器の使用を含む）（英語能力の測定と評価の方法としての Dictationの特性）

第8回（Day 8）　第３章　授業運営上の工夫：机間指導、指名、教室英語（情報機器の使用を含む）

第9回（Day 9）　第３章　授業運営上の工夫：小テスト、ペア・ワーク、スピーチ（情報機器の使用を含む）（パフォーマンス評価について理解する）

第10回（Day 10） 第３章　授業運営上の工夫：劇化、歌、ゲーム 第11回（Day 11） 第４章　生徒指導上の工夫：発音指導、文字指導、ノート指導、辞書指導 第12回（Day 12） 第４章　生徒指導上の工夫：予習、復習、速読・多読 第13回（Day 13） 第５章　教具・教材の利用法：板書、黒板画、ピクチャー・カード、フラッシュ・カード、演示 第14回（Day 14） 第５章　教具・教材の利用法：図示・図解、説明、テープレコーダー、OHP、VTR 第15回（Day 15） 学習指導要領、前期のまとめ、ALTとのティーム・ティーチングの方法
テキスト 一般財団法人語学教育研究所編著『英語授業の「型」づくり-おさえておきたい指導の基本』（大修館書店）
参考書・参考資料等 金谷憲『英語授業ハンドブック中学校編』（大修館） 石渡一秀『現場で使える教室英語 重要表現から授業への展開まで』（三修社） 中学校学習指導要領（最新版）・高等学校学習指導要領（最新版）、 中学校学習指導要領の英訳（最新版）・高等学校学習指導要領の英訳（最新版）
学生に対する評価 筆記試験　0 %　筆記試験は行わない。 実技評価　30 %　毎回の暗記・暗写テストの点数を合算 レポート評価　30 %　指示された内容の要約、およびその他の課題の評価を合算 平常点評価　30 %　毎回の受講レポートや実習、ディスカッションへの参加度を加味 その他　10 %　授業課題への取り組み状況を加味

授業科目名：教科教育法（英語）応用Ｂ	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：２単位	担当教員名：淡路　佳昌 担当形態：単独
科　目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校　外国語（英語））		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		

授業の到達目標及びテーマ

・きちんとした発音で音読ができるようになる。

・重要語を、生徒に分かるレベルの英語で説明できるようになる。

・教科書の英文を用いて、生徒との英語によるインタラクションを進めることができるようになる。

・ALTとのティーム・ティーチングを模擬的に進めることができる。

授業の概要

中学や高校での英語授業を想定して、実際に教壇で教える想定で実習を行い、授業の構成や改善方法を学ぶ。検定教科書の題材をベースに、実際にマイクロティーチングをしながら理解を深め、技能を向上させる。

授業計画

第1回（Day 1）　指導案の作成

第2回（Day 2）　模擬授業中学1年speaking（ALTとのティーム･ティーチングを模したマイクロティーチング（１班の実演とその検討）

第3回（Day 3）　模擬授業中学1年readingマイクロティーチング（２班の実演とその検討）

第4回（Day 4）　模擬授業中学1年communication（異文化理解に関する指導のマイクロティーチング）（３班の実演とその検討）

第5回（Day 5）　模擬授業中学1年writingマイクロティーチング（４班の実演とその検討）

第6回（Day 6）　模擬授業中学2年speaking(ALTとのティーム・ティーチングを模したマイクロティーチング)（５班の実演とその検討）

第7回（Day 7）　模擬授業中学2年readingマイクロティーチング（６班の実演とその検討）

第8回（Day 8）　模擬授業中学2年communication（異文化理解に関する指導のマイクロティーチング（７班の実演とその検討）

第9回（Day 9）　模擬授業中学2年writingマイクロティーチング（８班の実演とその検討）

第10回（Day 10）　模擬授業中学3年speaking(ALTとのティーム・ティーチングを模したマイク

	ロティーチング（９班の実演とその検討）
第11回（Day 11）	模擬授業中学3年readingマイクロティーチング（１０班の実演とその検討）
第12回（Day 12）	模擬授業中学3年communication（異文化理解に関する指導のマイクロティーチング）（１１班の実演とその検討）
第13回（Day 13）	模擬授業中学3年writingマイクロティーチング（１２班の実演とその検討）
第14回（Day 14）	模擬授業高校マイクロティーチング（１３班の実演とその検討）
第15回（Day 15）	授業検討の総括と後期のまとめ

テキスト

一般財団法人語学教育研究所編著『英語授業の「型」づくり-おさえておきたい指導の基本』（大修館書店）

参考書・参考資料等

金谷憲『英語授業ハンドブック中学校編』（大修館）3600 円

石渡一秀『現場で使える教室英語 重要表現から授業への展開まで』（三修社）1944円

中学校学習指導要領（最新版）・高等学校学習指導要領（最新版）、

中学校学習指導要領の英訳（最新版）・高等学校学習指導要領の英訳（最新版）

学生に対する評価

筆記試験	0％	筆記試験は行わない。
実技評価	30％	毎回の暗記・暗写テストの点数を合算
レポート評価	30％	指示された内容の要約、およびその他の課題の評価を合算
平常点評価	30％	毎回の受講レポートや実習、ディスカッションへの参加度を加味
その他	10％	授業課題への取り組み状況を加味

授業科目名： 教育学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 山本　宏樹 担当形態：単独
科　目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		

授業の到達目標及びテーマ

教育学に関わる基本的なテーマを扱いながら、「教育とは何か」「なぜ教育を行うのか」「教育はどうあるべきか」といった教育の理念に関わる原理的な問いにアプローチする。特に、教職課程の必修科目である本授業では、現代における教育の中心的舞台である「学校」に焦点をあて、学校の理念、学校の歴史的変遷、公教育の病理等について、思想・歴史・制度を踏まえて講義する。

具体的な到達目標は以下のとおりである。

１）教育の基本的概念を身に付けるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を説明できること。

２）教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を説明できること。

３）教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを説明できること。

授業の概要

現代の教育における重要なテーマについて、理念・歴史・制度・実態等を踏まえて客観的に説明できるようにするため、講義を中心としながらも、アクチュアルな問題を適宜提示し、授業で学んだ概念や知識を生かして、それを理解できるよう工夫する。また、授業で扱うテーマについての複数の立場や意見を理解した上で、自分なりの考え方の基礎を確立することができるよう、出来る限りグループでの意見交換をする時間を設ける。

授業計画

第１回：イントロダクション　授業の方法・内容・予定・成績評価等について

第２回：教育の基本的概念　１）教育の目的（発達・学習・教育、等）

第３回：教育の基本的概念　２）教育学の諸概念（教育と社会化、等）

第４回：教育の基本的概念　３）教育学の諸概念（能力と学力、等）

第５回：教育の基本的概念　４）子供・教員・家庭・学校等の相互関係

第６回：教育に関する思想　１）家庭や子供に関わる教育の思想

第７回：教育に関する思想　２）学校や学習に関わる教育の思想

第８回：教育に関する思想　３）代表的な教育家の思想（古代）

第９回：教育に関する思想　４）代表的な教育家の思想（近代） 第１０回：教育に関する思想　５）代表的な教育家の思想（現代） 第１１回：教育に関する歴史　１）家族と社会による教育の歴史 第１２回：教育に関する歴史　２）近代教育制度の成立と展開 第１３回：教育に関する歴史　３）現代社会における教育課題 第１４回：教育に関する歴史　４）未来社会における教育課題 第１５回：授業の総括 定期試験
テキスト 　特に指定しない。
参考書・参考資料等 ・ 木村・汐見（編著）『教育原理（アクティベート教育学１）』ミネルヴァ書房、2020年。 ・ 内海﨑貴子（編著）『教職のための教育原理 第２版』八千代出版、2017年。 ・ 汐見・高田・東・増田・伊東（編著）『よくわかる教育原理』ミネルヴァ書房、2011年。 ・ 文部科学省『中学校学習指導要領』平成29年告示、『高等学校学習指導要領』平成30年告示。
学生に対する評価 　筆記試験　５０％ 　平常点評価　５０％（毎回のリアクションペーパー、グループワークでの貢献、発表等を考慮する。）

授業科目名： 教師論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： １単位	担当教員名：中井　睦美 担当形態：単独
科　目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

１）教職観の変遷を踏まえ、今日の教員に必要な役割を理解している。

２）今日の教員に求められる基礎的な資質能力を理解している。

３）幼児、児童及び生徒への指導及び指導以外の校務を含めた教員の職務の全体像を理解している。

４）教員研修の意義及び制度上の位置付け並びに専門職として適切に職務を遂行するため生涯にわたって学び続けることの必要性を理解している。

５）教員に課せられる服務上及び身分上の義務及び身分保障を理解している。

６）校内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解している。

授業の概要

教師とはどういった仕事かについて、基本的な理念について授業する。また、中学高校の教員になったとき、現場で起こりうる様々な状況について講義する。様々な事象を紹介し、学生どうしで議論する事によって、教師としての心構えについての向上をはかる。キャリアとしての教員養成課程を履修する心構えの形成をはかる。

授業計画

第１回：オリエンテーション（授業の進め方、受け方）社会の中の学校と教師

第２回：生徒理解とは何か（生徒の置かれた環境を理解するということ）

第３回：教師の役割　教科指導

第４回：教師の役割　教科外の指導

第５回：学校とは何か、様々な学校にどう対応するか

第６回：教師はどう学び、学び続けるのか

第７回：評価するとは何か　自他を知る

第８回：教師どうしの協働とチーム学校

テキスト

教師論　学文社　中嶋みさき、中井睦美編著

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領（最新版）・高等学校学習指導要領（最新版）

学生に対する評価

授業内レポート６０%, 平常点４０%

授業科目名： 教育法・行政	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 森村繁晴 担当形態：単独
科　目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		

授業の到達目標及びテーマ

・学校教育を主とした法令の構造・制定経緯・内容・解釈を巡る議論を論理的に説明できる。その際、学校制度・教員・教育課程・教育費等の問題や、近年重視されている学校安全・学校と地域の連携についても取り扱う。

・法令の運用過程で生じる課題や、近年の改革の例を挙げながら、教育法規と教育実践の間の関係について具体的に理解し、自分の考えを述べられる。

授業の概要

本授業は、「教育に関わる社会的、制度的、又は経営的な事項」に該当する科目である。

①学校教育を主とした法令の構造・制定経緯・内容・解釈をめぐる議論を論理的に把握すること、②教育制度の運用過程で生じる課題を認識すること、③近年の教育改革の動向を知り、その成果と課題を理解すること、の３点を目的としている。

内容理解の把握のため、授業内で小テストを行う。

授業計画

第１回：イントロダクション：授業の方法・内容・予定・成績評価等について

第2回：戦後教育改革と憲法・教育基本法制の生成

第3回：新教育基本法と主要法令の改正――理念を法定することの是非

第4回：学校制度の改変の動向

第5回：教育を支える人々――教員の労働条件

第6回：教師の教育の自由をめぐって――教育課程法制、教育課程の編成と実施、教科書と補助教材

第7回：教育を受ける権利と教育機会の(不)平等

第8回：教育と政治――教科書検定、教育委員会制度改革論議と新制度

第9回：児童・生徒の教育を受ける権利①：就学義務、入学・転学・退学・卒業、出席停止制度、校則、懲戒・体罰

第10回：児童・生徒の教育を受ける権利②：教育費、教育格差問題とその対応

第11回：児童・生徒の教育を受ける権利③：学校安全の責務

第12回：学校と地域との連携①：教育課程改革との関係

第13回：学校と地域との連携②：学校と地域との連携の問題・課題 第14回：授業内レポート 第15回：まとめとふりかえり
テキスト 　特に指定しない。
参考書・参考資料等 ・古田薫・山下晃一編著『法規で学ぶ教育制度』ミネルヴァ書房、２０２０年 ・仲田康一『コミュニティ・スクールのポリティクス』勁草書房、２０１５年 ・教育六法 ・文部科学省のHPにある資料（法令、審議会情報等） ・その他は、授業中に示す。
学生に対する評価 　小テスト　４０％ 　授業内レポート　５０％ 　平常点評価　１０％（討議への参加状況を考慮する。）

授業科目名： 教育心理学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： ２単位	担当教員名：小沢　恵美子 担当形態：単独
科　目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		

授業のテーマ及び到達目標

（１）児童期、青年期を中心とした人間の発達、成長について説明できる。

（２）心理学における「学習」について解説できる。

（３）発達や学習に関係する心の働きについて関心を持つ。

（４）自分の経験や行動と心理学の理論や知見を結びつけ、自分の行動を分析できる。

授業の概要

人間の発達と学習は密接に関連している。心理学ではこの「発達」と「学習」をどのように考えているのか、またそれらがどのように関連しているかについて学ぶことを目的とする。

主な内容としては（１）発達について：児童期、青年期を中心に人間の発達、成長について、（２）学習について：学習と関連する心の働きについて、を中心に授業を進める。

授業計画

第１回：ガイダンス、発達理論（発達に影響している要因）

第２回：発達理論（ピアジェ、エリクソン、ヴィゴツキー）

第３回：発達について：幼児期（自己中心性、心の理論）

第４回：発達について：児童期（保存の概念、友人関係）

第５回：発達について：青年期（アイデンティティ、友人関係）

第６回：発達について：青年期の難しさ（アイデンティティ・ステイタス、摂食障害）

第７回：心の働きについて：動機づけ（外発的動機づけ、内発的動機づけ）

第８回：心の働きについて：動機づけ（原因帰属）

第９回：心の働きについて：記憶（記憶のメカニズム、記憶方略、忘れる）

第１０回：心の働きについて：学習（連合説による学習理論、認知説による学習理論）

第１１回：心の働きについて：思考（問題解決）

第１２回：教育評価とその意味（相対評価、絶対評価）

第１３回：発達障がいについて（限局性学習症）

第１４回：発達障がいについて（注意欠如多動症、自閉スペクトラム症）

第１５回：不適応への対応（不登校、いじめ）

定期試験

テキスト

『やさしく学ぶ教職課程　教育心理学』児玉佳一編著、学文社（2020年）

参考書・参考資料等 特になし
学生に対する評価 授業についてのリアクションペーパー30%、レポート20%、定期試験50%の総合評価とする。

授業科目名：特別支援教育（介護等体験の指導を含む。）	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：２単位	担当教員名：杉中　拓央 担当形態：単独
科　目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		

授業のテーマ及び到達目標

新学習指導要領の実施により、特別支援教育の施行、障害者権利条約の批准を踏まえたインクルーシブ教育システムの推進が一層図られている。特別支援教育はすべての教育に通ずるともいわれており、多様化する現代社会にあって、障害のある・なしより離れ、一人ひとりの子どもの個性を丁寧に理解・対応することが求められている。到達目標は以下のとおりである。

・特別支援教育の概念を理解し、説明することができる。

・子どもが有する各障害、課題の特性を理解し、説明することができる。

・子どもが有する各障害、課題にあわせた支援方法を理解し、説明することができる。

授業の概要

特別支援教育の概念および各障害・課題の理解と支援について、各教育段階における教育場面の具体的事例をとおして、ワークやディスカッションを交えながら学習する。

授業計画

第１回：特別支援教育の歴史と諸概念

障害児教育・ノーマライゼーション・ICF・特別支援教育・インクルーシブ教育システム

第２回：発達障害のある子どもの理解と支援Ⅰ

自閉症スペクトラム障害・注意欠如多動性障害・限局性学習障害の子どもの心理・生理・病理

第３回：発達障害のある子どもの理解と支援ⅠⅠ

教育場面における応用行動分析を用いた支援方法・発達検査・併存・スペクトラム

第４回：情緒面や行動面に課題のある子どもの理解と支援

場面緘黙・チック・不登校・一次障害と二次障害

第５回：視覚障害のある子どもの理解と支援

視覚障害のある子どもの心理・生理・病理と支援方法・全盲と弱視・感覚代行

第６回：聴覚障害のある子どもの理解と支援

聴覚障害のある子どもの心理・生理・病理と支援方法・ろうと難聴・コミュニケーションモード

第７回：言語障害のある子どもの理解と支援

言語障害のある子どもの心理・生理・病理と支援方法・スピーチチェーン・クラタリング

第８回：知的障害のある子どもの理解と支援

知的障害のある子どもの心理・生理・病理と支援方法・社会生活適応・てんかん・境界知能

第９回：肢体不自由のある子どもの理解と支援

肢体障害のある子どもの心理・生理・病理と支援方法・運動発達・拘縮・嚥下・不随意運動 第１０回：病弱・身体虚弱の子どもの理解と支援 病弱・身体虚弱のある子どもの心理・生理・病理と支援方法・抑うつ・医療的ケア児支援法 第１１回：外国にルーツをもつ子どもの理解と支援 外国にルーツのある子どもの心理・生理・病理と支援方法・シングル/ダブルリミテッド・不就学 第１２回：貧困と虐待の環境下にある子どもの理解と支援 貧困と虐待の環境下にある子どもの心理・生理・病理と支援方法・子どもの権利条約・児童相談所 第１３回：教育課程 特別の教育課程の編成・通級による指導・特別支援学級 第１４回：個別の諸計画と支援体制・連携 個別の教育支援計画・個別の指導計画・特別支援教育コーディネーター 第１５回：介護等体験について・子どもと教員のキャリア発達支援 介護等体験の意義・特別支援の子どもに対するキャリア発達支援の意義
テキスト 杉中拓央・呉栽喜・松浦孝明(2021)教職をめざす人のための特別支援教育－基礎から学べる子どもの理解と支援．福村出版.
参考書・参考資料等 MANABA（学内LMS）に随時、補足資料をアップする。
学生に対する評価 レポート（６０％）各回終了後に求めるミニッツペーパーの提出点（４０％）

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 中井　睦美 担当形態：単独
科　目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		

授業のテーマ及び到達目標

　教育課程の意義と編成の方法を学ぶ。このために、教育課程編成に関わる基本的要因、教育課程構成要素、教育課程を編成する基本原則を理解する。こうした基本的事項を踏まえて、実際の教育課程づくり、単元計画と授業実践の分析と評価の力量を育てる。

授業の概要

教育課程編成の意義と方法を多面的かつ具体的に理解する。さらに、教育課程編成の実践力を育成するために、実際の学校で編成されるカリキュラムを概観する。

授業計画

第１回：オリエンテーション：講義のねらいと進め方、教育課程編成の目的、
　　カリキュラム改訂に影響する諸要因

第２回：学習指導要領の変遷とその社会的背景、教育課程の意義

第３回：カリキュラム開発の理念と評価、教育課程編成とは何か

第４回：学習内容の系統性とカリキュラム、教育課程編成の基本原理、中学高校の教育課程の違い

第５回：カリキュラム・マネジメントとは何か、カリキュラムの諸類型

第６回：単元評価の意義、カリキュラム評価の基本的な考え方

第７回：教科及び教科横断的カリキュラム

第８回：教育課程の評価

テキスト

中学校学習指導要領解説総則編（最新版）、高等学校学習指導要領解説総則編（最新版）

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

レポート60%, 授業への参加度40%

授業科目名： 道徳教育論	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校）	単位数： 2単位	担当教員名： 渡辺　雅之 担当形態：単独

科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法および生徒指導、教育相談等に関する科目
各科目に含めることが必要な事項	・道徳の理論及び指導法

授業の到達目標及びテーマ

「特別な教科としての道徳の時間」が設置された社会的背景を理解する。その上で今日求められる学校内外における道徳性の教育の本質について理論と実践の両面から考察する。最終的には、教職についた時に道徳性の教育をどう進めるかその具体的なイメージが持てる。

授業の概要

人間の発達にとって道徳性とは何かシチズンシップとダイバーシティを基底にして、その本質を考える。全面主義(学校の教育活動全体を通じた道徳教育)、「特別な教科　道徳」、各教科領域に内包される道徳性の教育という3つの側面から、その理論と実践について考察する。

授業計画

1. 道徳教育とは何か1　経験的考察-自身の原体験
2. 道徳教育とは何か2　理論的考察「特別の教科　道徳」設置の教育的背景
3. 道徳教育とは何か3　理論的考察「特別の教科　道徳」設置の社会的背景
4. 道徳性の教育に関する要素1　ヒューマンライツ
5. 道徳性の教育に関する要素2　マイノリティとダイバーシティ
6. 道徳性の教育に関する要素3　平和教育
7. 教材研究1「道徳科教科書」
8. 教材研究2「補助資料の活用」
9. 道徳の指導法　「実践論1」-全面主義としての道徳教育
10. 同　「実践論2」-教科領域における道徳性の教育
11. 同　「実践論3」カリキュラム編成(全体計画・授業プラン)
12. 同　「実践論4」指導案作成
13. 同　「実践論5」模擬授業(1)
14. 同　「実践論6」模擬授業(2)検討会含む
15. 全授業のまとめ-レポート発表

定期試験

テキスト

渡辺雅之「いじめ・レイシズムを乗り越える『道徳』教育」　高文研,2014年

どうなる?!「道徳」どうする?!「道徳」,(民主教育研究所編),2016年 小学校学習指導要領（最新版)、中学校学習指導要領「道徳編」（最新版）
参考書・参考資料等 香山リカ編著「ヒューマンライツ-人権をめぐる旅へ-」　ころから　2015年
学生に対する評価 ・筆記テスト40% ※最終授業で実施するまとめテスト(含む小論文)を評価する ・レポート30% ※授業で指示した簡易レポートや毎回のリアペを小レポートとして評価する。 ・平常点30% ※G学習や討論への参加態度を評価。

授業科目名： 特別活動論・総合的な学習の理論と指導法	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：小池由美子 担当形態： 単独
科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・総合的な学習の時間の指導法 ・特別活動の指導法		

授業の到達目標及びテーマ

学校における様々な集団の中で活動を行うために必要な学級活動・ホームルーム活動等、自治の活動やよりよい集団になるための人間関係の形成、自己実現のための集団活動についての指導法について様々な事例から学習し、最終的には、教職に就いた時に指導の見通しとその具体的なイメージが持てる。総合的な学習の時間は、探究的な見方・考え方を働かせ、科目横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す。広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究する。

授業の概要

特別活動の指導のあり方と学習指導要領に示されている目標および主な内容を読み込み、理解を深める。実際の教育現場でどのように実践していくと効果があるかを理解する。学級活動・ホームルーム活動等をはじめとして、集団についての概念やリーダー指導、保護者とつながる行事の作成等を通して指導のあり方を学ぶ。総合的な学習及び探求の時間の授業指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付ける。

授業計画

１．オリエンテーション
　自己紹介、授業のテーマと内容、授業の進め方、アンケート
２．特別活動(学級活動・ホームルーム活動等を含む)
　中学校年間行事から特別活動を選び出す、特別活動と総合的な学習の変遷、経過（戦前、戦後）
３．特別活動とは何か
　特別活動の内容、特別活動と生徒指導、特別活動の目標、総合的な学習の目標
４．現代の子ども、学校をどうとらえるか「チーム学校の視点」
５．学級集団の指導①
　生徒指導と特別活動・総合的学習の時間･学級活動ホームルーム活動：　会話・対話を中心に（実践記録から学ぶ）
６．学級集団の指導②(学級活動・ホームルーム活動等を含む)
　行事の指導の実践から学ぶ
７．学級集団の指導③　　～討議・討論の指導の実際～
８．学級集団の指導④　　リーダー論・班活動のあり方を考える

９．文化活動・校外授業（学校行事）の指導と課題 学校行事、文化的行事のねらい（学習指導要領より）、検討すべき課題、文化的活動の実践例の紹介 １０．生徒会活動の意義と実際・儀式的行事の意義と課題 生徒会活動の目標、内容、意義と変遷、現在の生徒会活動、映像で見る生徒会活動 儀式的行事の意義と実際、卒業式について、日本での国旗・国歌の取り扱いの変遷と、世界での扱い １１．教科横断的・総合的な学習及び探究の時間とは何か 教科横断の学び方との授業指導計画の作成方法及びカリキュラムマネージメント １２．広範な事象を多様な角度から俯瞰して捉え、実社会・実生活の課題を探究するためにどのような指導の観点が必要か。 １３．探究的な学習の過程についての具体例 １４．総合的な学習の時間における児童及び生徒の学習状況に関する評価のあり方 １５．まとめとレポート作成
テキスト 中学校学習指導要領「特別活動編」（最新版）、高等学校学習指導要領「特別活動編」（最新版）、中学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」（最新版）、高等学校学習指導要領解説「総合的な探究の時間編」（最新版）
参考書・参考資料等 全国生活指導研究協議会紀要 生活指導誌
学生に対する評価 ※最終授業で実施するまとめ小論文を評価する ・レポート　40% ※授業で指示した簡易レポートや毎回のリアクションペーパーを小レポートとして評価する。 ・発表等の平常点　40% ※グループ学習や討論への参加態度を評価する。 ・20%

授業科目名：教育方法・情報通信技術活用論	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：２単位	担当教員名：末松　加奈 担当形態：単独
科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・教育の方法及び技術 ・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		

授業のテーマ及び到達目標

資質・能力の育成に向けた主体的・対話的で深い学びの実現を念頭に、様々な教育の方法および指導にあたって必要な技術について学び、ICTを含む教育の方法・技術に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。

授業の概要

教育の方法について、社会的・思想的な背景を踏まえながら理解する。

実際の指導方法や評価の考え方について、事例と共に理解を深める。

情報通信技術の活用について、社会的背景と文具としてのデジタルデバイスの在り方という観点からその意義や理論への理解を深める。

ICT環境の整備を含む、校務や学習指導への実際の情報通信技術の活用方法と情報活用能力の育成について学ぶ。

授業計画

第１回：教育の方法・技術の歴史

第２回：深い学び（理解とは、学習の転移 ほか）

第３回：対話的な学び（協働的な学び、自己説明 ほか）

第４回：主体的な学び（動機づけ、メタ認知、自己調整学習 ほか）

第５回：授業展開の工夫（授業の構造、アクティブ・ラーニング　ほか）

第６回：学習指導の実際（教材研究、板書、発問　ほか）

第７回：評価の方法（学力とは、観点別学習状況の評価 ほか）

第８回：情報通信技術の活用の意義

第９回：　文具としてのデジタルデバイス

第１０回：個に応じた学びとICT活用

第１１回：協働的な学びとICT活用

第１２回：　ICT環境整備と校務への活用

第１３回：特別に支援を必要とする児童への情報通信技術の活用

第１４回：情報活用能力の育成と指導事例（情報モラルを含む）

第１５回：学習指導案の作成（ICT活用を含む）

テキスト 「中学校学習指導要領(平成29年告示)」文部科学省 「高等学校学習指導要領(平成30年告示)」文部科学省
参考書・参考資料等 柴田義松・山﨑準二 編著「教育の方法と技術　第三版」学文社
学生に対する評価 授業への取り組みに対する意欲や態度（20%)、指導案（30％）、講義内容に関するレポート(50%)

授業科目名： 生徒指導論（進路指導を含む。）	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： ２単位	担当教員名： 高原　史朗 担当形態：単独
科　目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		

授業の到達目標及びテーマ

生徒指導の学校教育上の位置づけや意義および理論を理解すること。その上で、現在の生徒指導の課題をつかみ、どのように対処するか、具体的、実践的なイメージが持てること。

進路指導、キャリア教育の学校教育上の意義や理論を理解し、今必要な進路指導、キャリア教育の具体的な内容について考察し、具体的な指導構想が持てること。

授業の概要

学校教育の中で生徒指導とはどのような意義や働きを持っているのかを、理論的に考察するとともに実際の指導はどのように行われているのか、さらに、どのような指導が大切なのかについて具体的な事例をもとに追究する。進路指導、キャリア教育の意義、理論を踏まえた上で、変動の激しい若者の雇用環境の現実を踏まえ、これからの進路指導、キャリア教育に求められるものは何かについて追究する。

授業計画

1. 生徒指導とは何か1　経験的考察-自身の原体験
2. 生徒指導とは何か2　生徒指導の教育課程における位置づけと役割
3. 生徒指導とは何か3　懲戒、体罰、校則と関連法令
4. 生徒指導とは何か4　集団指導と個別指導及び相互の関連性の考察
5. 生徒指導の現代的課題１　現在の子どもをどうとらえるか
6. 生徒指導の現代的課題２「いじめ（ＳＮＳによるいじめを含む)」「暴力問題」へどう対処するか
7. 生徒指導の現代的課題３「不登校」「問題行動」にどう対処するか
8. 学校全体で取り組む生徒指導１　生徒指導の組織と役割
9. 学校全体で取り組む生徒指導２　教員相互の連携の在り方、関連機関との連携の在り方
10. 授業及び特別活動と生徒指導　具体的な事例から学ぶ
11. 進路指導とキャリア教育１　進路指導の経験的考察
12. 進路指導とキャリア教育２　進路指導･キャリア教育の教育課程における位置づけと役割
13. 進路指導とキャリア教育３　進路指導・キャリア教育の内容と課題
14. 進路指導とキャリア教育４　今、必要な進路指導、キャリア教育

15. 全授業のまとめ 定期試験
テキスト 高原史朗「中学生を担任するということ」高文研２０１７ 中学校学習指導要領解説　総則編（最新版）、高等学校学習指導要領解説　総則編（最新版）
参考書・参考資料等 高原史朗『15歳まだ道の途中』２０１９、文部科学省『生徒指導提要』２０１１
学生に対する評価 ・最終授業で実施する筆記テスト・レポートを評価する（５０％） ・授業で指示した簡易レポートや毎回のリアペを小レポートとして評価する（３０％） ・平常のグループ学習や討論への参加態度を総合的に評価する（２０％）

<table>
<tr><td>授業科目名：
教育相談（カウンセリングを含む。）</td><td colspan="2">教員の免許状取得のための
必修科目</td><td>単位数：
2単位</td><td>担当教員名：
小峰　秀樹
担当形態：
単独</td></tr>
<tr><td>科　目</td><td colspan="4">道徳、総合的な学習の時間等の指導法および生徒指導、教育相談等に関する科目</td></tr>
<tr><td>施行規則に定める
科目区分又は事項等</td><td colspan="4">教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法</td></tr>
<tr><td colspan="5">授業のテーマ及び到達目標
〇テーマ：学校現場で「教育相談」の知見を活かした「教育」ができるようになるための「理論」および「実践力」を身につけるための基礎力を涵養する。
〇到達目標：①「教育相談」について、自分の言葉で説明できるようになる。
②主要な理論について、概要を説明できるようになる。
③「傾聴」「共感的理解」など、カウンセリングの基本的姿勢を身に着け、技法を活用できるようになる。
④「いじめ」「不登校」「非行」等への基本的な関わり方、発達障害を抱えた生徒への支援の在り方について、自分なりの方法で対処できるようになる。
⑤教育相談の指導計画の作成、行内体制の整備等、組織として動くための視点を獲得する。</td></tr>
<tr><td colspan="5">授業の概要
本授業では、基本的な教育相談の理論を理解し、学校現場で生かせるような実践力を身につけることを目指す。「教育相談とはなにか」「教育相談の基本的な理論」「教育相談の基本技法」「現場の抱える様々な課題とその対応」など、実際に教壇に立った時に必要となるものについて、講義、グループワーク、討論などの授業形態で、理解力、実践力を身につけていく。また、チームとして活動していくために必要なアセスメント、コンサルテーション、コーディネーションの実際についても、事例を通して理解していく。</td></tr>
<tr><td colspan="5">授業計画
第１回：学校教育と教育相談
第２回：教育相談の理論（１）「精神分析」「自己理論」「行動理論」
第３回：教育相談の理論（２）「実存主義」「交流分析」「論理療法」
第４回：教育相談の理論（３）「応用行動分析」「アドラー心理学」
第５回：教育相談の技法（１）「面接演習」
第６回：教育相談の技法（２）「グループワーク」
第７回：発達と発達課題
第８回：不適切な行動への対応</td></tr>
</table>

第９回：発達障害の理解と支援 第１０回：学校で使えるアセスメント 第１１回：学級経営に生かす教育相談 第１２回：授業に生かす教育相談 第１３回：保護者理解とその支援 第１４回：校内および関係機関との連携 第１５回：教師のメンタルヘルス 定期試験は実施しない。
テキスト 特記事項なし
参考書・参考資料等 〇中学校学習指導要領（平成29年3月　文部科学省） 〇その他については、その都度、授業の中で紹介する。 〇会澤信彦・安齋順子の「教師のたまごのための教育相談」（北樹出版）は、テーマが万遍なく網羅されていて、わかりやすく書かれているので、一読しておくことを勧める。
学生に対する評価 平常点60％（グループワーク、討論等授業への参加の様子。及び、毎時間「小レポートの提出」を課す）、レポート40％で評価する。

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習（中高）		単位数：２単位		担当教員名：中井　睦美	
科　　目	教育実践に関する科目				
履修時期	４年次後期	履修履歴の把握（※１）	○	学校現場の意見聴取（※２）	○
受講者数　　20人（1～3クラスで実施）					

教員の連携・協力体制

教職の部分を専任教員（中井睦美）が担当し、同じ資料とカルテを使って授業を行い、全体の運営に責任を持っている。現場教員の非常勤講師（外部講師）が、教育現場の現状についての授業を分担している。教科に関する科目の専任担当教員（中井睦美兼任）が、教科指導の振り返りを中心に教科指導部分の授業も担当している。それぞれに班活動で議論をするなど、アクティブラーニング的授業を取り入れている。

授業のテーマ及び到達目標

教育実習を振り返り、みずからの教員としての現状と資質について分析し、課題を明らかにできる。様々な学校現場について理解する事ができる。今後、教員どうしで学び合う方法を確立し、将来の学び続ける教員としての姿勢について理解する事ができる。

授業の概要

授業はアクティブラーニングを中心に進行する。教育実習を振り返り、自らの問題点利点、学校の特色について、相互に発表し、課題について話し合い、発表する。また、これらのことをカルテや共通の振り返りシートを利用して、文章にして残す。

様々な実習校について学生どうしで情報共有をし、議論する事により、今後の課題をより鮮明にする。課題を中心に学び合い、発表し合い、また、役割演技を行い、今後教員どうしともに学び合える事について学ぶ。

授業計画

第１回：オリエンテーション　振り返りシートの課題（教職分野）
第２回：カルテと振り返りシートを使って班毎に共通課題を名各区にする（教職分野）
第３回：外部講師の授業（現場のかかえる課題について）
第４回：外部講師の授業（学級経営・生活指導・道徳教育について）
第５回：外部講師の授業（保護者との関わり地域教育委員会との連携について）
第６回：教科指導についての振り返り（実例を通しての話し合い）（教科分野）
第７回：授業中における生徒理解について（役割演技）
第８回：グループ活動　生徒の現状に合わせた授業展開
第９回：グループ活動　教材の使い方と教材研究
第１０回：教科学習における“現場”の重要性（教科分野）
第１１回：グループ活動　これからの社会におけるそれぞれの教科教育を考える
第１２回：グループ活動　教科横断型授業の展開方法
第１３回：グループ活動をふまえた模擬授業
第１４回：模擬授業を通してのディスカッションと相互評価
第１５回：まとめ

テキスト 教職課程の記録（カルテ）、振り返りシート、教育実習の記録、教育実習で作成した学習指導案
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領（最新版）、高等学校学習指導要領（最新版）
学生に対する評価 教職課程履修記録（カルテ）内容５０％　振り返りシート内容２０％、日常点３０％

※１　履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。

※２　授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。